

は単独使用より雞の成長促進に効果を認められた。

尚抗生物質添加剤ヒダナフアックの雞の成長並に飼料要求率についての比較は本試験程度の添加率についての比較は本試験程度の添加率においては増体量において有意差が認められず飼料要求率はダイナフアックがわずかにすぐれておるがダイナフアックの添加量 0.025% と 0.05% 区において増体量は 0.025% 区がまさり飼料要求率は 0.05% がまさっておる結果を得ているので追試験の必要があると思う。

20. ハイグロミックス 8 の駆虫効果試験

殿内正芳 井崎金一
名倉清一 清水明良

目 的

抗生物質のハイグロミックス 8 の鶏の内容生虫に対する駆虫効果を知るべく行った。

方 法

供試鶏は初産年度の白レグホ元交配鶏雌 22 羽雄 2 羽を一群とした平均 12 羽として対照区、試験区 I、II、III の 4 区にし、給与飼料及び薬剤の飼料添加は次表の様である。投薬期間は 3 月 6 日より 5 月 7 日までの 9 週間にして、投薬終了後、1 部屠殺検査し他は強カヘルミンノック錠を 1 錠当給与し排虫数を調査した。飼料給与は 1 日 3 回粉餌として給与し、午後の給餌に線餌を混合した。

調査は投薬前の群単位とした虫卵数の検便投薬後毎週 1 回の検便と内臓的虫体排虫状態を毎日調査し區別に集計した。飼料摂取量、産卵状態、飼料要求率等は區別に算出し、体重は開始時 30 日目、終了時に測定した。

飼料配合割合と添加率

	基礎配合	魚粕	トリエコシ	小麦	生米糠	計	CP	TDM
配合率	55	10	15	15	5	100	17.2	68.2
	対照区	1 区	2 区	3 区				
添加率	0	0.15%	0.075%	0.037%				

成 績

(1) 虫体及び虫卵の排泄状態

(1) 虫体の排泄状態 (排泄率)

区別	週別	週別										着検 数	ヘルミン 投薬 回数	計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	計			
対照区	回虫	0	1.2	0.3	2.4	1.9	4.5	0.8	1.9	1.8	14.8	0	85.2	100
	絛虫	0	0.5	0	1.1	1.6	0	0.5	0.5	3.3	26	0	92.4	100
	計	0	1.0	0.2	2.1	1.9	3.5	0.7	1.7	2.1	13.2	0	86.8	100
I区	回虫	2.6	15.3	13.6	22.0	3.4	4.2	0	2.5	0	68.6	0	31.4	100
	絛虫	50.0	0	0	0	25.0	0	0	0	0	75.0	0	25.0	100
	計	9.1	14.7	13.2	21.3	4.1	4.1	0	2.4	0	68.9	0	31.0	100
II区	回虫	0.85	8.5	4.3	7.4	0.85	2.6	3.4	0.85	0.85	31.6	15.4	53.0	100
	絛虫	2.4	0	0	0	0	0	0	0	2.4	4.8	58.5	36.7	100
	計	1.3	6.3	3.2	0	0.63	1.9	2.5	0.63	1.3	24.7	26.5	48.8	100
III区	回虫	4.2	4.0	4.0	7.4	1.1	0.5	3.4	2.9	3.2	30.7	0	0	100
	絛虫	2.9	8.6	0	5.6	2.9	0	0	0	2.9	22.9	20.0	20.0	100
	計	4.1	4.4	3.6	7.3	1.2	0.5	3.1	2.7	3.1	30.0	1.7	68.3	100

(1) 糞便中の虫卵の消長

顕微鏡直接検査

月日		1 2 3 4 5					EPG		月日		1 2 3 4 5					EPG	
		対照区	-	-	-	-	+	133			100	4.16	対照区	+	-	-	+
3.6	1	-	-	-	-	-	0	"		1	-	-	+	-	-	130	13000
	2	-	-	-	+	+	0	"		2	+	-	-	-	-	60	6000
	3	+	+	+	-	-	66	"		3	-	-	-	+	-	0	0
3.14	対照区	+	-	-	+	+	800	602		対照区	+	+	+	+	-	400	301
	1	-	-	-	-	-	0	100		1	-	-	-	-	-	0	100
	2	-	-	-	-	-	0	100		2	-	-	-	-	-	0	100
3	+	+	-	-	-	60	91	3	-	-	-	-	-	0	0		
3.19	対照区	+	-	-	+	+	400	301		対照区	-	-	+	-	-	60	45.2
	1	-	+	+	+	-	800	80000		1	-	-	-	-	-	0	100
	2	-	-	-	-	-	400	40000		2	-	-	-	-	-	0	100
3	-	-	+	+	+	400	607	3	-	+	+	+	+	260	394		
3.26	対照区	+	+	-	+	-	370	298		対照区	-	+	+	+	-	60	45.2
	1	+	-	-	-	+	60	6000		1	-	-	-	-	-	0	100
	2	+	-	-	-	-	120	12000		2	-	-	-	-	-	0	100
3	-	-	-	-	-	60	91	3	-	-	-	+	-	0	0		
4.2	対照区	-	-	-	-	-	260	196	ヘルミン 7投薬后	対照区	+	-	-	-	-	0	0
	1	-	+	-	-	-	0	100		1	-	-	-	-	-	0	0
	2	-	-	-	-	-	0	100		2	-	-	-	-	-	0	0
3	-	-	-	-	-	0	0	3	-	-	-	-	-	0	0		
4.9	対照区	+	-	+	+	-	66	49.7									
	1	-	-	-	-	-	0	100									
	2	-	-	-	-	-	0	100									
3	+	-	-	-	-	0	0										

肉眼的に虫体の排泄の認められたのは回虫と絛虫であつて投薬后1日迄排虫が認められ、4週で最高となり、次后次第に減少していった。3区

回ク個から再び増加しはじめた。

條虫の排泄状況は対照区の自然排虫が試験区より多く投薬の効果は
ないものの如く思われる。

回虫においては試験は対照区に比較し4週までは多く以降は減少し
たが3区は4週以降再び増加した、試験区の各層糞検査において対
区は皆無にして、2区が最も多く回虫、條虫共に存在した、3区は回
虫はいなかったが條虫は存在していた。

強力ヘルミノック錠投薬による排虫の状態は対照区3区2区1区の
順であって投薬区は明らかに対照区より少なかった。

排虫率は対照区の自然排虫が回虫において148% 條虫 76% 残存率
85.2% 92.4% で回虫の排泄が多かった。

試験1区は回虫 68.6% 條虫 75.0% 残存率は31.4% 25% である
たが條虫は個体数が僅少であるためこの率は誤差が多いと思われる。

2区は回虫 31.6% 條虫 48% の排虫率で残存率は68.4% 95.2%
で残存率は高かった。

飼料へ添加する薬品の率は0.15% が良いと思はれる。

糞便中の虫卵の消長は試験12区は投薬后4週より消失したが6週
以前においては消失出現を繰返し明確の傾向は認められなかった。

(2) 産卵及び飼料要求率

区别	产卵率	授巢前	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計
对 照 区	产卵率	78.8%	74.67	72.73	72.07	74.67	67.53	25.97	81.82	78.57	79.22	25.25
	平均卵重	54.0	54.0	54.1	56.4	54.4	54.0	54.0	53.98	53.98	54.7	54.3
	授巢数量	-	91.3	107.2	108.9	101.1	112.0	109.9	99.7	105.0	96.4	103.5
	要求率	161.5	2.263	2.725	2.696	2.490	3.070	2.677	2.259	2.476	2.226	2.531
1 区	产卵率	80.0	83.11	85.97	77.27	79.22	77.27	79.22	78.57	79.87	84.42	79.44
	平均卵重	55.8	54.2	54.6	55.5	53.7	56.4	55.0	54.4	54.6	55.1	54.8
	授巢数量	-	113.1	113.1	109.5	113.9	112.7	106.5	104.9	109.2	105.0	107.6
	要求率	-	2.727	2.727	2.553	2.675	2.585	2.444	2.453	2.503	2.259	2.470
2 区	产卵率	173.5	78.57	74.67	78.89	78.23	82.99	79.59	80.95	80.95	82.31	78.85
	平均卵重	53.4	53.0	54.7	53.4	53.3	53.4	53.4	53.0	52.9	51.3	53.2
	授巢数量	-	94.8	113.8	112.8	118.0	120.8	113.7	113.7	99.2	108.3	110.4
	要求率	-	2.279	2.785	2.937	2.828	2.723	2.695	2.695	2.317	2.566	2.634
3 区	产卵率	178.1	75.97	76.62	71.42	64.93	72.08	89.48	66.88	64.93	69.48	70.20
	平均卵重	54.0	53.4	54.3	54.1	54.4	50.8	54.6	54.9	55.5	55.1	54.5
	授巢数量	-	96.6	124.2	120.1	119.1	119.6	115.8	105.1	110.3	107.6	113.14
	要求率	-	2.381	2.984	3.107	3.374	3.049	3.054	2.864	3.063	2.809	3.195
							1.888				1.889	

投薬前の期間は5日間であつて、産卵率の重量共に投薬後の経過に伴う変化は認められず3区における産卵率の低下は長期休産鶏の発生によるものであつてこの休産は9週終り着後した結果卵巣肉腫であつて寄生虫の害によるものではなかつた。飼料初率は対照区2区は経過に伴う変化は明らかではなく、3区は病鶏発生のため悪くなった。1区は稍々良好になった。試験各区を対照区と比較すると産卵率においては1区は対照区より7週を除いて常に良好であつた。2区は3と7週を除いては常に良好であり、3区は1と5週のみ良好であるとの區はあつた。

飼料の1羽当平均摂取量においては試験区は対照区より多く、試験区間においては3区2区1区の順に多く、投薬量とは関係は無いものと思われる。

体重には変化は認められず、連続長期投与による薬害は無いと思われ
る。

摘 要

- (1) 抗生物質のハイクロミックス8の回虫、條虫の駆虫効果を知るために基礎飼料に0.15 0.075 0.037%の割合で添加した飼料を1群24羽の鶏に9週間わたつて連続投与した。
- (2) 添加率0.15%においては回虫の排出率68.6%と有効であつたが他の0.075 0.037%では残存率が68.4% 69.3%と共に高く駆虫効果が劣つた。條虫については0.15%区では虫体数が少く効果は明かでは無いが0.075 0.037%では効果はうたがわしい、糞中の虫卵は6週以前においては消失、出現を繰返し明確の傾向は認められなかつたが9週より消失した。
- (3) 産卵性、飼料要求率、体重、飼料摂取量等は特別の傾向は認められなかつた。